

ひめじ保幼小連携教育カリキュラム 活用リーフレット

つなげよう子どもの「育ち」と「学び」を



姫路市教育委員会

######

アプローチプログラム・スタートカリキュラムとは

子どもたちの「育ちと学びの履歴」をつなぐことを目指し、接続期の子どもたちの実態やそれぞれの時期で大切にしたい指導内容や指導方法を示したものです。

アプローチプログラムとは・・・

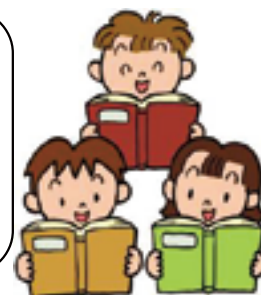
「遊び」を通して、学ぶ意欲や学習態度の基礎となる好奇心・探究心を培っていきます。



教科等の学習を中心とした小学校生活への見通しをもち、子どもの「育ち」と「学び」をつなぎます。

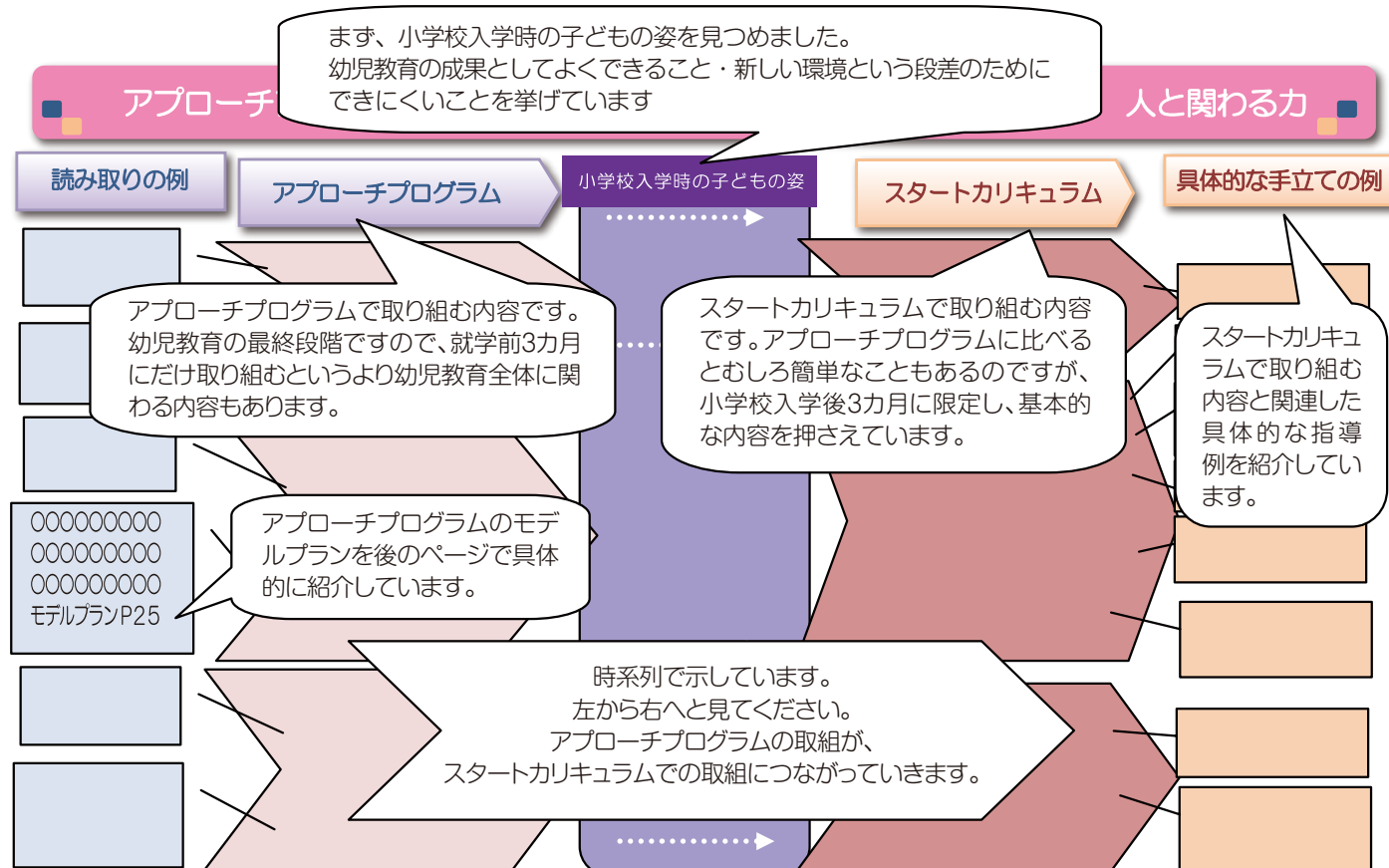
スタートカリキュラムとは・・・

就学前の経験や環境を参考に、学校生活への変化に対応できるよう配慮して指導していきます。



就学前教育で身に付けた力を生かした指導を行い、子どもの連続した「育ち」と「学び」を円滑につなぎます。

アプローチプログラム・スタートカリキュラムの見方



*次に示す「アプローチプログラム・スタートカリキュラムの概要」は冊子からの抜粋です。
冊子には『人と関わる力』『生活する力』『学ぶ力』の三つの育てたい力についてそれぞれに示しています。(P.17～21)

アプローチプログラム・スタートカリキュラムの概要

読み取りの例

アプローチプログラム

人と関わる力

【友だちや保育者との人間関係が深まり、人と関わる心地よさを感じながら、よりよく遊んだり生活したりしようとする力】

【あいさつ】

- 友だちや保護者、地域の人などとあいさつをする
- 親しみをもっていろいろなあいさつを交わし、つながりをもつ
- 感謝の気持ちを伝える（修了式、卒園式など）

【伝え合い】

- みんなで共通の話題について話し合うことを楽しむ（体験入学・生活発表会・お別れ会など）

【人との関係づくり】

- 友だちのよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう（学校ごっこ、劇遊びなど）

あいさつを交わす心地よさや大切さが味わえるような雰囲気をつくる

クラスで話し合う場を設け、自分の思いを話したり、友だちの考えを聞いたりする場面を多くもつ
モデルプラン P.25

体験入学に参加したときに感じたことや、入学後にやってみたいことなどを自由に話せる雰囲気をつくる
モデルプラン P.26

ふれあい給食の後、楽しかったことを話し合い、入学後の給食に対する期待を高める
モデルプラン P.28

体験入学などで小学校を訪れた時に、トイレを利用する機会をもち、不安を軽減しておく

時計を見ながら「長い針が6になるまでに食べようね」などと声をかけ、食事や片付け、降園などの時間を意識して生活できるようにする
モデルプラン P.30

友だちと同じ目的をもち考えたり工夫したり協力したりする中で、友だちと試行錯誤しながら活動する楽しさや、目的が実現する喜びを味わえるように援助する
モデルプラン P.33

生活する力

【園生活の中で自分の役割を感じて、自分たちで生活を進めていこうとする力】

【食事】

- 和やかな雰囲気の中で食事をする楽しさを感じ、食への関心をもつ

【排泄】

- 活動と活動の間にトイレに行く

【生活態度】

- 時間を意識して行動しようとする

学ぶ力

【身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、自ら考え、決定し、伝え合って遊ぼうとする】

- 数量や図形、文字などに関心をもち、生活や遊びの中に取り入れて楽しむ
- 自分の名前を読んだり書いたりする
- 冬から春に向かう自然に触れ、美しさや不思議さなどの感動を、友だちや教師と伝え合い、共感し合う
- 物語などからイメージを広げ、言葉や動き、絵などで表現する
- 戸外で体を動かし、進んでいろいろな運動を楽しむ（縄跳びや竹馬、ボール、跳び箱、鉄棒、平均台など）
- グループやクラスの友だちと共に、自分たちで主体的に共通の目的に向かって考えを出し合い、協力して活動する（劇遊び・修了式・卒園式など）

小学校入学時の子どもの姿

○入学式で「おめでとう」の言葉に「ありがとうございます」と元よく応える
☆個別になるとあいさつができにくい場合がある

○教師の話を一生涯懸命聞こうとする
☆全体の指示を自分のこととして聞けないことがある

○名前が分からなくても話しかけることができる

○友だちと楽しく給食を食べることができる
☆給食を楽しみにするあまり、食べられる量の見通しがもてずに残してしまう

○水洗トイレの使い方が分かり、使用後にスリッパをそろえることができる
☆和式トイレが使いづらい

○チャイムを意識して行動している

○自分の名前が読めたり、書けたりする

○校庭の草花を摘んだり、虫を見付けたりしている
☆服や手足が汚れることを極端に気にする子どもがいる

○知っている歌を楽しく歌ったり、リズムに乗って楽しく踊ったりすることができる

☆構成人員が変わってしまっているため、話し合ったり、協力し合ったりする活動が成立しにくい

スタートカリキュラム

具体的な手立ての例

人と関わる力

【友だちや教師など身近な人と関わりながら、思いを伝え合い、人間関係をつくっていく力】

【あいさつ】

- あいさつの言葉をきっかけに人と関わろうとする
 - ・教師からあいさつをしたり声をかけたりする
 - ・国語「はきはきあいさつ」
 - ・生活「学校たんけん」
 - ・道徳「まほうのことば」

【聞く】

- 自分のこととして聞き、理解し行動に移す
 - ・生活場面
 - ・読み聞かせ

【人との関係づくり】

- 友だちと一緒に遊んだり活動したりする

あいさつが人と人との関わりをスムーズにすることを具体的に伝える

子どもが落ち着いて聞けるよう、読み聞かせなどでは、みんなが集まって座ったりイスだけを集めて座ったりするなど、隊形も工夫する

対人関係の不安を共感的に受け止め、隣の席の友だちから人間関係づくりを始め、広げていく

生活する力

【新しい環境に適応して生活する力】

【食事】

- 自分が食べられる量が分かり、食器の中のものを残さず食べる
 - ・給食時間の指導
 - ・学級活動

【排泄】

- 休み時間にトイレに行く

【生活態度】

- チャイムの意味が分かり、その時に合わせた行動をとることができる
 - ・学級での指導
 - ・生活場面
 - ・授業中

配膳の後「苦手なものを減らしにしないで。もっと食べられそうなものはおかわりできるよ。」と声をかける

授業中の姿勢について具体的に知らせる

- ・お腹と背中にグー1コ
- ・背すじはピンとのぼす
- ・足の裏を床に付ける

学ぶ力

【教科学習等の基礎となる興味・関心や意欲・能力】

- 正しくひらがなが読める・書ける
- 10までの数について正しい書き方や読み方が分かり、その意味や順序が分かる
 - ・国語「じをかこう」「あいうえおのうた」など
 - ・算数「かずとすうじ」「なんばんめ」など
- 自然に触れて遊ぶ
- 自分の感じたことをのびのびと表現する
 - ・音楽「うたでなかよしになろう」
 - ・図工「すきなもののなかに」
- 集団行動の基本的な動きを知り、楽しく運動し力いっぱい活動する
- 自分がクラスの一員であることを感じ取り、安心感をもつ
 - ・生活「学校たんけん」・道徳「たのしいがっこう」
 - ・学級活動

ひらがなや数の学習は授業だけでなく、生活場面でも機会をとらえて指導していく

・クラス分け発表用の貼りだし名簿を教室に掲示して、友だちの名前やひらがなを覚えられるようにする

・並んだときに何番目か、何人いるかなど一緒に数える など

「気をつけ」「れい」「前へならえ」「休め」などの号令に合わせた行動の仕方を教え、きびきびと動く練習をする

特別支援教育

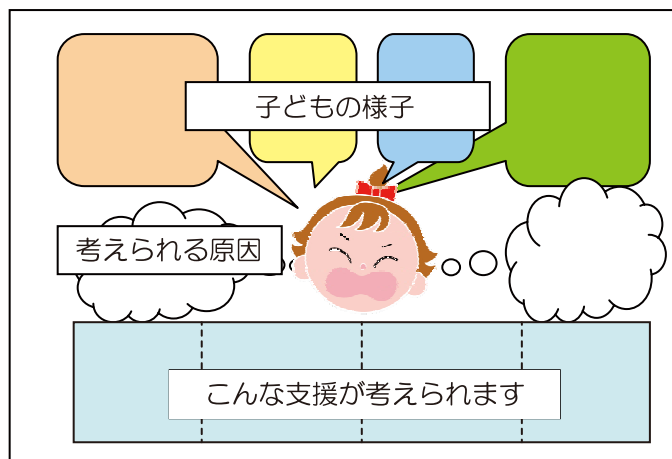
子どもが困難や問題(困り感)を抱えていることに誰かが気付くことで、特別支援教育がスタートします。クラス担任だけで抱え込まず、それぞれの保育所や幼稚園、小学校で話し合いができる環境づくりが必要です。目の前にいる子どもに寄り添い、適切で丁寧な専門的指導を保育所・幼稚園の段階から継続して行い、小学校へつないでいくことが大切です。

特性の理解から支援へ ……(P.50～53)

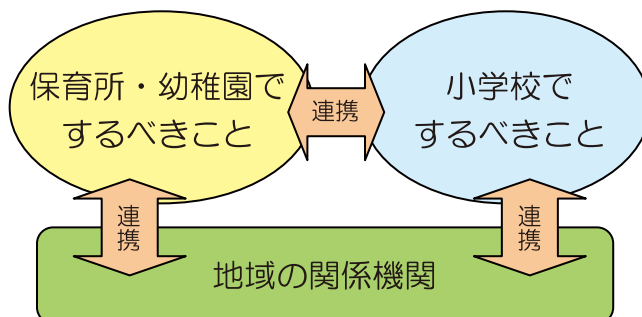
困った子どもから、
困っている子どもへの発想の転換

子どもが気になる行動をするときは、まずその原因を考えてみましょう。その行動は、その子どもの特性から生じることであれば、私たち指導者が理解することから適切な支援は始まります。

冊子では、具体的な支援の方法を明示しています。



それぞれの役割を明確にした連携を(P.62)



保育所・幼稚園・小学校と地域の関係機関が連携し、一貫した取組をすることで子どもの豊かな育ちが保障されます。

子どもを理解するために…

個別支援計画・個別の指導計画の活用(P.65～66)

子どもの特性を理解し、適切な支援をしていくためには、保育所・幼稚園では、個別支援計画、小学校では個別の指導計画を立てて、関わる全ての人が共通理解をしていくことが必要です。それをするによって、

- 子どもを多角的に見ることで、その子どものよさを知ることができます。
- 見通しをもって長期的な視点で、子どもの支援を考えていくことができます。
- 職員の協力体制を築くことができます



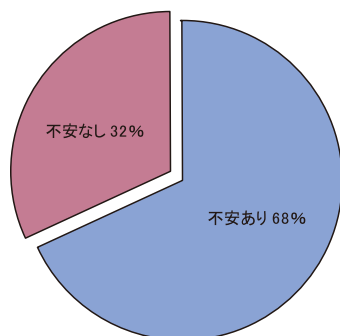
保護者連携・支援

今、家庭や地域社会における子育て環境が変化し、保護者が気軽に相談できる相手が少なくなるなど、保護者の子育てへの不安感や孤立感も高まってきているようです。

保護者連携・支援は、それぞれの保護者が子育ての中で感じる不安を、深刻化させないために、「親と子が共に育つ」という観点から実施するとともに、保護者の子育てに対する意欲を引き出し、「保護者が子どもを育てる力」を向上させることが大切です。

■保護者連携・支援は
「特別な保護者」にだけでなく保護者全体に必要です。

小学校入学について不安がありますか？

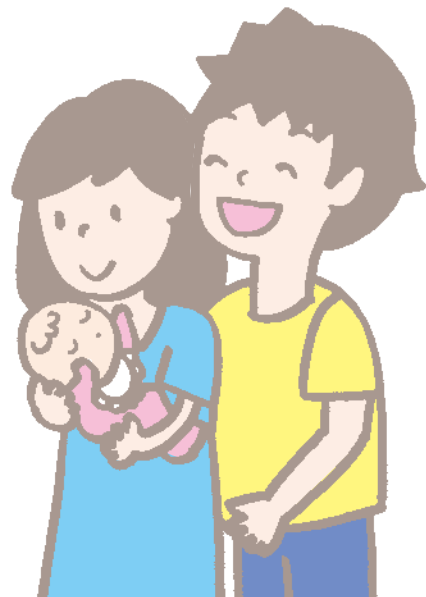


○小学校入学に際して、68%の保護者が不安を感じています。

○不安の要因は以下のように様々です。

- ・同級生との人間関係
- ・学習について
- ・施設設備について

平成 23 年度入学時保護者アンケートより



保護者連携・支援フローチャート (P.75)

私たち保育・教育に携わる者は、どのタイミングでどんな連携・支援が必要かを見極めるスキルをもつ必要があります。冊子では、連携・支援を「伝える」「支える」「守る」の三つに分けて考えるためのフローチャートを作り、それぞれに具体例を交えて記載しています。

伝える

学校・園の方針などを、具体的にわかりやすく伝える工夫をしましょう。そこから信頼関係がより深まります。

支える

保護者の不安や悩みを理解し、その教育力を向上させる支援を計画しましょう。

守る

関係諸機関との連携した支援が必要です。保護者の子育てに対する意欲を引き出す支援を計画しましょう。

毎朝遅刻してくる子ども

事例の説明

ここが
POINT



具体的な支援のスキル

専門家による助言

保護者連携・支援事例 (P.84～88)

保護者連携・支援は保護者が子育てに対する不安やストレスを解消し、その喜びや生きがいを見出すことができ、子どものよりよい育ちを実現することを目的としています。冊子では、次の事例を挙げて考えています。

- ① 大人の生活リズムと子どもの生活リズムに折り合いが付けられずに疲れてしまった保護者を支える連携・支援
- ② 子どもの行動が受け入れられずに戸惑う保護者に寄り添う連携・支援
- ③ 不適切な関わりが疑われる保護者を支える連携・支援

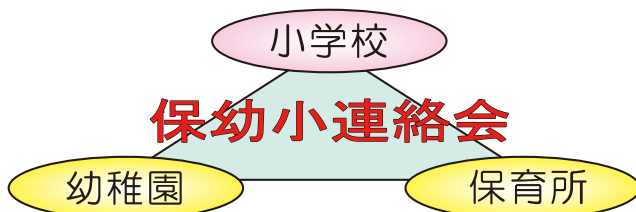


姫路市が目指す就学前教育と小学校教育の連携



姫路市では、「保幼小の教職員が協働して、子どもたちの豊かな体験と学びを保障」といったテーマのもと、子どもたちの「育ち」と「学び」をつなげるべく、就学前教育と小学校教育の連携に取り組んでいます。

保幼小連絡会の開催



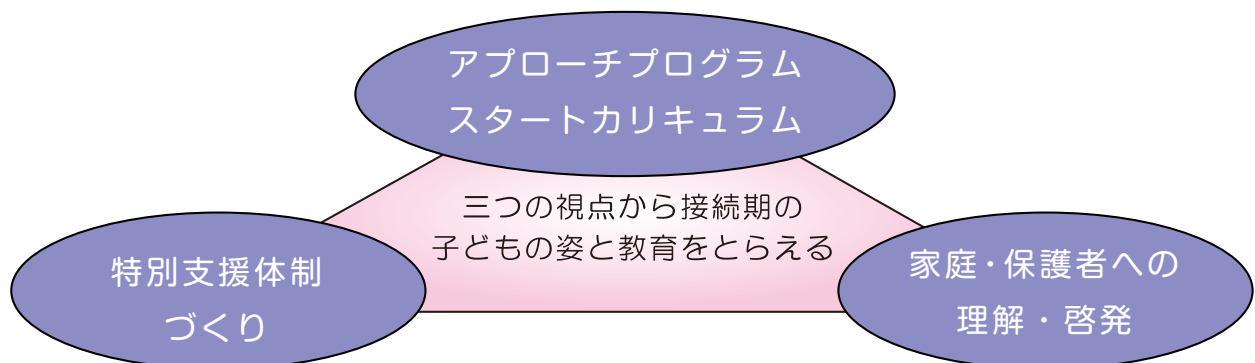
各小学校には、市内の多くの就学前施設で多様な体験をした子どもたちが入学してくるという現状を踏まえ、小学校区ごとに、私立、公立の保育所、幼稚園並びに小学校といった全ての校園所を対象とした「保幼小連絡会」を開催しています。

子どもの姿を核にした子どもの「育ち」と「学び」をつなぐ視点で連携活動を推進

ひめじ保幼小連携教育カリキュラムの活用

姫路市幼児教育 共通カリキュラム	接続期	姫路市小中一貫教育 標準カリキュラム
---------------------	-----	-----------------------

ひめじ保幼小連携教育カリキュラム



就学前教育から小学校教育につなぐアプローチプログラムとスタートカリキュラムを基盤として、特別支援体制づくりと家庭・保護者との連携・支援の三つの視点から子どもの姿と教育をとらえています。それらを重層的に関連付けながら、具体事例やモデルプラン等も交え、より実践化につなぐ視点で編集しています。

平成 24 年(2012 年)12 月発行

姫路市安田四丁目 1 番地

姫路市教育委員会事務局 学校教育部 学校指導課

TEL 079(221)2120 FAX 079(221)2749

E-mail kyo-gakosido@city.himeji.hyogo.jp

http://www.city.himeji.lg.jp/s110/2212766/_23152.html